

17 「患者と共に立てる看護計画」導入後の評価

病院看護部 看護記録検討委員会 鏡味麻里子 山中かほり 廣田早苗 堀岡美由紀 松根智美
古田佳奈代 泉谷義明 関口亨 八十濱成人 富岡佳代 田村玉美

【はじめに】

H18年看護記録検討委員会では、患者・家族の希望や意向を反映させた看護計画の立案を目的に「患者と共に立てる看護計画」を始めた。これは入院時に「患者と共に立てる看護計画」用紙の患者記載欄に医療・看護者への要望、苦痛や不安なこと、困っていることなどを患者・家族が直接記入し、看護師がその内容を基に看護計画を立案、患者・家族に計画を説明し同意を得るというものである。導入から10ヶ月が経過し現状を調査したので報告する。

【方法】

調査期間 H19年10月1日～H19年10月20日

1. 病棟勤務の看護師62名と入院患者（家族）138名を対象に、無記名自記式質問紙調査票を配布し、回答の得られた看護師60名と患者（家族）80名のデータを集計した。
2. 全病棟の入院患者143名の「患者と共に立てる看護計画」の（患者記載欄）の内容を調査した。

【結果】

有効回収率 看護師60名（97%） 患者（家族）80名（58%）

1. 患者記載欄があつて良かったかという質問に「良いと思う」「まあまあ良いと思う」と答えた患者・家族は80%であった。その理由は「思いが伝わる」「あれば少しでも不安が解消する」「一方的でなくてよい」などであった。（図1）
2. 患者記載欄に記載された内容は、「治療・訓練への期待」が44%「ADLに関する困っていること、心配事」が32%、「特になし記載なし含む」が17%、「疾患に起因すると考えられる身体的苦痛の訴え」4%、「入院生活への不満・要望」3%であった。（図2）
3. 「患者と共に立てる看護計画」を実施して良かったかという質問に「とても良かった」「まあまあ良かった」と答えた看護師は33%。その理由としては「患者・家族の思いが伝わる」「目標の共有に役立つ」であり、反対の理由としては、「患者からは特になしの記載が多い」「患者や家族に理解して頂くのが難しい」「患者の思いが実現できるものばかりではないので難しい」などであった。（図3）

【考察】

患者・家族の80%が「患者記載欄があつて良かった」と回答していることから、患者・家族にとっては入院時にいろいろな希望や期待や思いなどを伝えたいが、口頭ではなかなか言えず、患者記載欄があることで伝えることが出来るようになり、高い支持を得たと言える。しかし、「実施して良かった」と感じている看護師は33%と低く、初期計画は入院後24時間以内に立案となっていることや、患者・家族への説明やそれに伴う新たな業務が加わったことが背景にあると考えられる。これらの問題を委員会で検討し患者の満足度が向上するよう今後も実施していきたい。

図1

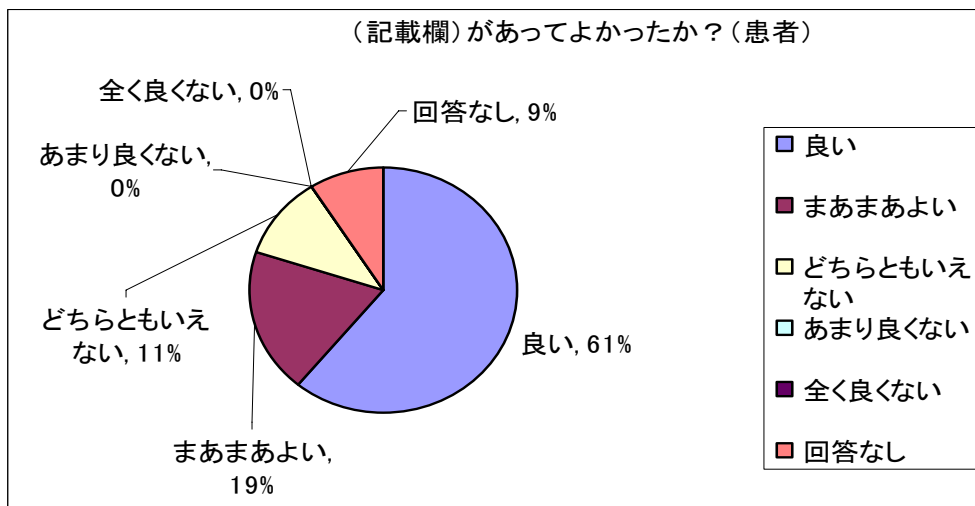


図2

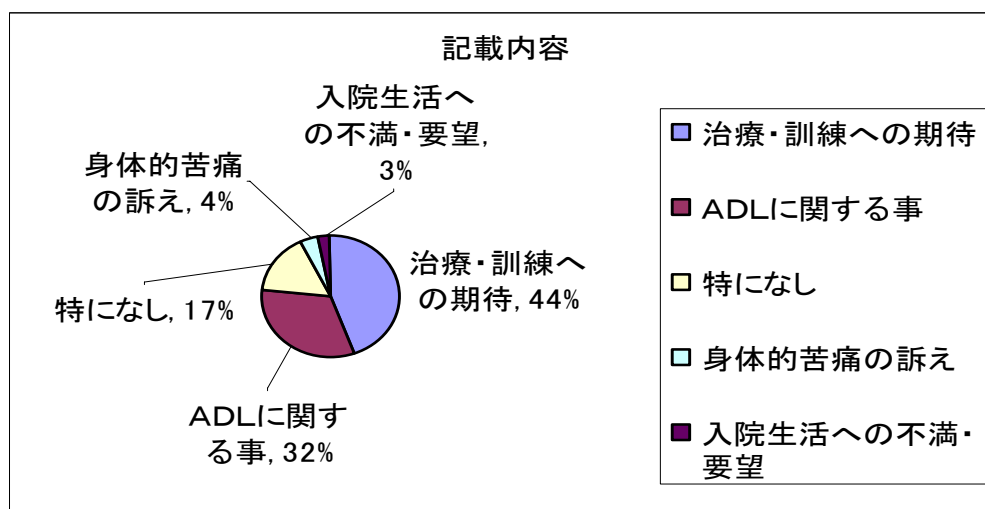


図3

